



修正版「蝶々夫人」のりハーサルの様子（4日、イタリア）ニ・プッチーニ・フェスティバル財団提供・共同

「蝶々夫人」修正版 伊で上演 日本文化、正しく演出

【トッレデルラーゴ】長崎を舞台にした作曲家プッチーニのオペラ「蝶々夫人」における日本文化への誤解などを直した、日本人声楽家の岡村喬生さん演出による「修正版」が6日夜、イタリア中部トッレデルラーゴで開かれたプッチーニ・フェスティバルの野外劇場で上演され、詰め掛けた約2500人のファンを堪能させた。

岡村さんによると、こ

れまで海外の公演では蝶々夫人のおじの僧侶がちょんまげ姿だったり、着物の襟の合わせが逆だったりすることがあった。

このような誤りを正した上で、登場人物が座敷に上るときには履物を脱いでそろえるなど、細部にわたり正しい日本文化の演出にこだわった。

岡村さんは「日本人役は日本人歌手に、外国人役は外国人歌手に極力演じさせるようにした」と話す。せりふに登場する日本語の誤りも修正しようとしたが、プッチーニの遺族の意向で断念した。

近隣の市から来たマンフレディ・ルチアナさん

（66）は「舞台装置や幻想的な演出が斬新で、とても感動的だった」と話していた。

「蝶々夫人」は明治時代の長崎を舞台に、米海軍士官と結婚した日本人女性「蝶々さん」の悲恋物語をプッチーニがオペラ化した。